

北陸病院

## 地域医療連携室だより



News Letter to Hokuriku Hospital

## 残暑お見舞い申し上げます

地域医療連携室長(副院長)  
清水 淳三

この夏は梅雨が長引き、日本の各地で集中豪雨の被害が相次ぎました。夏が短く農作物の出来が悪いのではと心配しましたが、梅雨明けと共に猛暑の到来で、結局帳尻を合わされて夏が終わりそうな気配です。冒頭に残暑お見舞いを書きましたが、この連携だよりが先生方のお手元に届く頃には、もう秋風を感じるころかも知れませんので、あらかじめお断りしておきます。

北陸病院と近隣の先生方との連携を強化する目的で、平成17年7月に開放型病床(オープンベッド)を始めさせて頂きましたが、1年が経過しその1年間の実績を出しましたので、簡単に報告させて頂きます。表1にオープンベッド入院患者状況を示します。入院患者数は225人、延べ3,299人、病床利用率は51.7%、1日当たり9.0人、平均在院日数は25.5日でした。図1はオープンベッド入院患者の退院後の状況を示します。登録医の先生方にお返しした患者様が105人(84.7%)、北陸病院に通院している患者様が2人(1.5%)、患者様の希望で転院された方が8人(6.5%)、死亡された患者様が9人(7.3%)でした。表2は医療機器外部依頼件数を示します。CTが419件、MRIが97件、RIが18件、インプラント(歯科)が185件ありました。かかりつけ医の先生方と北陸病院との共同診療というこの制度の効率性、利便性、経済性が先生方から好評を頂き、以上の様な数字をあげることができました。

本当にありがとうございました。平成17年10月からはオープンベッドの病床数を20床に増床させて頂きましたので、病床にはまだまだ余裕がございます。どうか今後とも北陸病院に先生方の大事な患者様の健康と医療をお任せ頂ければ幸いです。このオープンベッドの制度は何より、ご利用になられる患者様からかかりつけ医の先生方にお寄せ頂いている高い信頼関係があってこそ成り立つ制度であると理解しています。北陸病院では先生方との連携をさらに厚くし、ご利用の患者様の信頼に一層お応えできるように、職員一同努力していく所存です。

さて、北陸病院は今年11月に創立50周年を迎えます。この記念すべき年の4月に、3名のDrが交代となりました。詳しくはこの後の自己紹介の欄をご覧頂ければ幸いです。小生からは簡単にご紹介させて頂きます。まず腎臓内科では、当院に長く20数年間も在籍された浅香Drが辰口芳珠記念病院に転出され、新たに済生会金沢病院より道下Drをお迎えしました。道下Drには血液浄化センターでの透析の患者様も担当して頂き、当院の透析患者数がさらに増加するように近隣の先生方との連携を密にして頂ければ幸いです。次に消化器内科では、当院に2年間在籍した木下Drが珠洲市総合病院に転出され、新たに金沢大学附属病院より三林Drをお迎えしました。(→中面へ続く)



(→表紙から続き) 三林Drは内視鏡的手術や胆管ステント留置などを積極的にこなし、外科の立場から見ても大変上手だと評価しており頼りにしています。三林Drにもぜひ近隣の先生方との連携を密にもらい、さらに積極的な消化器内科医となって頂ければと思います。三人目は外科ですが、当院に1年6ヶ月在籍した谷内Drが舞鶴共済病院に転出し、新たに福井県済生会病院より村田Drをお迎えしました。卒後6年目の新進気鋭の女性外科医です。さすが女性らしく手術は繊細で上手く、また患者様やコメディカルとの関係もとても良好です。将来は呼吸器・消化器・乳腺と何でもこなすスーパー外科医になることと期待しています。近隣の先生方も何卒よろしくお願ひ致します。

わが国の医療を取り巻く状況は厳しさを増すばかりです。新しい医師卒後臨床研修制度が発足してからというもの、卒業した新人医師達の流れは地方から大都市に大きくシフトし、これまでの大学医局からの医師供給体制に大きな支障が出ています。一方で医療制度構造改革の名を借りて、4月からは診療報酬が3.16%削減され、患者負担が増え、また老人医療にもさらに患者負担が増えることが既に決まっています。このように病院の生命線である医師の確保、病院収支の健全

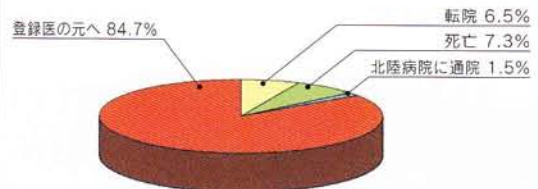
性保全の両面でこれまで以上の努力が必要であり、これらの試練に負けないように今後とも先生方とさらに病診連携の充実を図って行きたいと思っています。そしてできれば、北陸病院はこの地域の中核病院として、住民の皆様が安心して良い医療を受けられる病院であるように、また金沢大学を中心としたマンパワーの充実を図って行けるようにしていきたいと思っています。ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



### 開放型病床実績 (H17.7~H18.6)

表1

月別	開放型病床数	入院患者数		延べ入院患者数(人/月)	病床利用率(%)	平均在日数(%)	利用登録医実数	1患者あたり指導回数
		総数	1日平均					
7月	10	15	7.0	217	70.0	20.7	8	1.4
8月	10	21	9.8	303	97.7	21.6	5	1.2
9月	10	13	6.9	207	69.0	29.6	4	1.1
10月	20	25	11.2	346	55.8	23.1	7	1.0
11月	20	27	13.7	412	68.7	27.5	4	0.7
12月	20	20	8.3	258	41.6	24.6	4	0.6
1月	20	10	6.8	211	34.0	38.4	3	1.4
2月	20	13	5.7	159	28.4	26.5	3	0.7
3月	20	15	10.8	336	54.2	48.0	4	1.7
4月	20	17	6.4	193	32.2	20.3	5	1.1
5月	20	22	10.4	323	52.1	24.8	7	1.0
6月	20	27	11.1	334	55.7	20.2	8	0.6
合計	210	225	9.0	3,299	51.7	25.5	62	1.0



退院後状況 H17.7~H18.6 図1

### 医療機器共同利用状況 (H17.7~H18.6)

表2

区分	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
C T	38	30	33	50	51	31	29	27	34	36	24	36	419
MRI	5	2	10	9	13	2	10	6	13	8	8	11	97
R I	0	1	1	0	1	2	3	2	1	3	2	2	18
インプラント	12	14	11	20	20	11	12	13	20	22	15	15	185
合計	55	47	55	79	85	46	54	48	68	69	49	64	719

## ドクター紹介

Dr. introduction



腎臓内科医長  
道下 泰克

本年の4月から浅香敏先生の異動のため当院に腎臓科医長として赴任してきました道下と申します。出身は石川県珠洲市です。浜松医科大学を平成3年3月に卒業して同年4月に金沢大学第2内科に入局、翌平成4年から腎臓内科教室で勉強させてもらっています。今までの勤務は輪島病院の5年間が最長でその他は1年から2年の短いものとなっています。しかし今度は腰を落ち着けるつもりで参りましたので、今後開業医の諸先生方との長いおつき合いをよろしくお願いします。

急性、慢性腎炎の患者様、慢性腎不全保存（最近はchronic kidney disease：慢性腎疾患と呼称するようになってきています）の患者様はまず塩分、蛋白質などの制限が必要です。御紹介頂ければ、教育入院を含めた食事指導をさせていただきます。現在の当院の血液透析の患者数は49名、最少年齢28歳から最高年齢92歳まで平均年齢64.6歳となっています。最近の新規透析導入患者の傾向として、糖尿病性腎症による腎不全をその原疾患とする患者様の比率が高くなってきている事と、高齢での導入が多くなっている事があります。糖尿病の患者様でCrが2を超えていれば速からず血液透析が必要になる可能性があります。血液透析を回避、または先延ばしするためにも十分な食事指導と内服療法が必要となります。また今までは御高齢だからと血液透析導入を躊躇っていた方でも年齢以外の条件に不都合がなければこれからは血液透析も考えなくてははいけません。これらの患者様がいらっしゃいましたら一度御紹介頂ければ幸いです。



消化器医長  
三林 寛

H18年4月より木下晶代先生の後任として赴任致しました、三林と申します。私は大阪医科大学卒業後、H13年に金沢大学第二内科に入局し、今年で6年目になります。この間、金沢大学医学部附属病院、石川県立中央病院、北陸中央病院、厚生連高岡病院、横浜栄共済病院にて消化器内科医として研鑽をつんで参りました。

当院では、EVL、EIS、ESD、EMR、ESTなどの内視鏡的処置から、PTCD、RFA（人工胸水でも可能です）、そして化学療法まで、幅広く診療させて頂いております。これから、皆様からの紹介患者様に満足して頂けるようがんばりたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。







外科医長  
村田 智美

経歴

H13年3月 金沢大学医学部卒業  
H13年4月 金沢大学第一外科（現心肺総合外科）入局  
H14年4月 石川県立中央病院 小児外科 同10月より呼吸器外科勤務  
H15年4月 公立能登総合病院 外科勤務  
H16年4月 小松市民病院 外科勤務  
H17年4月 福井県済生会病院 呼吸器外科勤務  
H18年4月より当院外科勤務

4月より北陸病院外科にて勤務させていただくこととなりました村田です。開業医の先生方には、常日頃からのご紹介とご支援をととても嬉しく思っています。

当院に勤務してからは、呼吸器・消化器・乳腺・心臓血管と多岐に渡る手術があり、清水先生・荒能先生のご指導のもと、忙しくもとても充実した日々を送らせて頂いています。フットワークの良さと迅速な対応を常に心がけ日々精進しています。

当院に配属となり感じたのは、コメディカルの方々が優しくフットワークが良いので、多少無理なことお願いしても対応してくださることに非常に感謝をしています。私ごとですが、祖父も当院にて6月に手術を行い、看護師さんがやさしい・食事がおいしいと感動し退院していきました。

今後とも日々精進を重ね、がんばっていききたいと思っております。ご指導の程、宜しくお願ひいたします。

## マンモグラフィ新機種導入しました

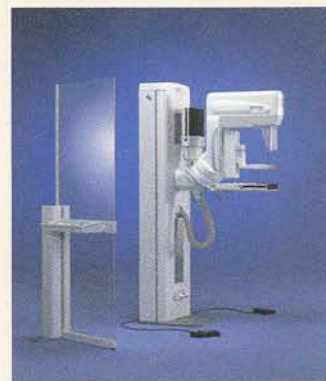
近年、乳がんの罹患率増加に伴い早期発見の手段としてマンモグラフィが注目されています。

マンモグラフィはご存じのとおり、専用のX線装置により乳房を圧迫して撮影します。乳房を圧迫して乳腺組織を広げることにより、これまで触診や超音波では検出できなかった石灰化の形状、分布などの観察が容易となり非触知病変の発見が可能となります（乳房の形態により困難な場合があります）。

乳房撮影装置は日本医学放射線学会の定める使用基準を満たし、線量3 mGy以下でかつ、画質を満たしていることが要求されています。当院では従来よりこの使用基準を満たしたマンモグラフィ装置により撮影を行っていましたが、新年度より新装置MAMMOMAT 3000 Nova（独Siemens社製）を導入しました。

ご予約可能な時間帯については、月曜日から金曜日で、外科医師（マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定医師）の診察が必要な場合は当院外科の診察時間に準じますが（主として8:30～12:30 午後からは手術の予定により多少異なります）、すこやか検診でマンモグラフィ撮影のみ（触診済み）の場合でしたら、8:30～17:00の間休みなくお受けしております。放射線科と地域医療連携室で窓口を設けておりますので、こちらまでご連絡お願いします（なるべく患者さまのご都合に添えるよう、ご予約をお取りしています）。

当院では2名の女性技師（いずれもマンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定技師）により撮影を行っています。また、撮影の際、肩から掛けるケーブルもご用意しております（撮影もケーブル着用のままで行います）。



MAMMOMAT3000Nova

〒921-8035 金沢市泉が丘2-13-43  
北陸病院 地域医療連携室  
URL\*<http://www.hokuriku-hosp.jp/>

月曜～金曜 8:30～17:00  
076-241-1259  
(地域医療連携室)

土曜 8:30～12:00  
076-243-1191  
(代表)